

水中カメラで有明海・橘湾(南島原市沖合)の海底を調査！



南島原市水産課では、年々漁獲量の減少が続く有明海・橘湾（南島原市沖合）の海底の状況を確認するため、国立研究開発法人 海洋研究開発機構 戦力的イノベーション創造プログラム（第3期SIP）海洋環境調査チームの協力のもと、令和5年9月22日から25日まで、市内5箇所（加津佐、西有家、有家、布津、深江）において調査を行いました。

調査は、深海探査機「江戸っ子1号」を水深約20～40mの海底に設置し、生物や環境状況を確認しました。

9月26日、市役所会議室でSIPによる海底調査の報告会がカメラの映像を見ながら行われました。海底の砂の状態はきれいで、ヘドロなどの堆積物もみられない。プランクトンも多いように感じるとの報告がありました。また、カメラにはカワハギ、アジ、ヒゲソリダイ、ヒラメ、イカ等たくさんの魚種が確認されました。

【深海探査機：江戸っ子1号】



【報告会・水中カメラの映像】

